

審査員特別賞

「僕らの海は世界に繋がる」

高岡市立伏木中学校 3年

石崎 侑

僕の住む町、伏木には国分浜があります。国分浜には「日の出会」という行事があります。毎年8月1日に海から昇る朝日を皆で見ます。朝4時半にうす暗い浜辺に集合して、海から昇る朝日を待ちます。海にオレンジ色の丸い太陽が昇って、暗い海と空が明るく朝日に染まっていくと美しいなと感じます。この伝統行事は約100年ほど続いています。自然の美しさを僕たちに教えてくれる大切な行事となっています。

日の出を拜んだ後に、国分浜を清掃します。小さい頃から僕らは「自分たちの海を自分たちで守る」という意識を持って育ってきました。しかし、どんなに清掃をしても後から後からゴミが流れてきます。日本のゴミもあれば、海外からのゴミもあります。僕は、それらのゴミを見る度とても悲しく腹立たしい気持ちになります。

伏木には港があります。定期的に外国船が停泊します。僕は外国船を見ると、この地元の海が世界と繋がっていることを感じます。この海は海外から人や荷物を運んで来て、日本に利益をもたらしてくれます。この港から約7万トンの自動車が輸出され、石炭や原塩、金属、石油製品などが輸入されています。しかしその一方で、海はゴミも流通させます。国分浜に海外からのゴミが漂着してくるということは、また日本のゴミも海外を汚しているのだらうなと思います。人・物・富の国際的な流通は嬉しいものだけど、ゴミの流通はどこかで止めなければいけないと思います。そう思った時、伏木住民がずっと続けてきた国分浜清掃は小さな国際協力であるのではないかと気付きました。

海は世界に繋がっているから、地元の海を清掃することは海外へのゴミの流出をくい止めることになっているのだと思います。国分浜清掃を繰り返しても、ゴミの漂着が絶えず、うんざりしてしまうこともあったけれど、この清掃が世界の海を美しくしているという意識を持って、諦めずに取り組み続けていくことが大事だと思いました。だからこれからも清掃の日は早起きして参加したいと思います。それが僕にできる国際協力です。

自然の美しさは国と国との条約で守られる場合もあるけれど、一人一人の環境を守りたいという気持ちと行動が積み重なって守られていくものだとも思います。ゴミをひとつ拾うことも環境を守るという国際協力に繋がっています。

清掃が続けられている国分浜は、人の手によって環境保全がなされています。100年後のこの浜にはたった一つのゴミも漂着しないことを願います。朝日が昇る美しい地元の海を守る活動が、どこか知らない国に暮らす人々の海も守ることになると信じて、僕はこの小さな国際協力を続けていきたいです。